

令和5年度 横浜市立四季の森小学校 学校だより

このまちに生き、共に輝く子



四季の森 10月号



<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shikinomori/>

10月は子どもを褒めるチャンスが満載

学校長 森脇 信行

先日、約25年ぶりに練馬区東大泉にある牧野記念庭園に行ってきました。小学生のころ、父親に連れられて行った時を含め3回目の訪問でした。庭園は昭和33年より植物学者牧野富太郎博士の邸宅跡地として一般公開されています。博士は自宅の庭を「我が植物園」として大切にされていました。私が訪問した日は、夏の植物と秋の植物が混在して、夏と秋を同時に楽しむことができました。今年は博士が実際に使われていた書斎と書庫を再現する展示もオープンしました。1年以上前から楽しみにしていたNHKの連続テレビ小説「らんまん」も9月で終わりましたが、私にとっては博士の姿に触れられたような至福の時間となりました。

さて、10月は前期と後期の区切りの時期です。前期の子どもの成長については後日あゆみでお伝えします。また、10月21日は運動会が開催されます。私はこの時期は子どもの頑張ったことを認め、褒めるチャンスがたくさんあると考えています。

子育てで、良いところを認め、褒め、自信を持たせることはとても重要ですが、それはとても難しいことです。つい苦手なことのみに目が向き、小言や注意が多くなってしまいます。あゆみを見るときも、「評価・評定」や「どの程度身についたか」が気になってしまいます。それを『これからどう声かけをしていくか』の視点に変えることで、子どもの次なる成長につなげていくことができます。学校は皆様方と一緒に、子どもへの言葉かけを大切にして、子どもの頑張りを認め、褒めながら可能性、長所をのばしていきたいと考えています。

10月21日の運動会にむけた、演技や競技の練習が始まると、学校は途端に活気が溢れてきます。子どもたちは、演技種目、競技種目、個人種目（徒競走）の3つの種目に参加します（リレーの代表選手は4種目）。私は、運動会を通して、『**勝っても負けても全力を尽くすことの大切さを子どもたちに感じてもらいたい**』と思っています。がんばったことを認められ、自信と達成感を持った子どもは次の活動でもがんばって、また自信と達成感を得られるでしょう。こういったサイクルを経ることで子どもたちは成長していきます。このように運動会は、子どもたちの心根を深くし、心の中を耕し、肥料を与え、成長させる絶好の機会と捉えています。子どもたちは、運動会当日、私たちにすばらしい姿を見せてくれることでしょう。ぜひ、疲れて帰宅した子どもに、最大限のほめ言葉をかけてあげてください。

このように、10月は子どもを認め褒めるチャンスが満載であるように思えてなりません。皆さんもそのように感じませんか。

